

## 繪畫展覽會

毎年春秋になると諸方に展覽會が開かれ、彼方此方で繪畫の論評が話題になる。いかにも展覽會は美術を奨励する方法に相違ない。現に近頃の繪畫はみな展覽會に出すつもりで畫かれたので、カンヴァスや筆と共に展覽會は美術家に必要なものとなつたのである。

併しながらフアイデアスはその製作を畫堂に持ち込んだであらうか、ゾルヂヲネやヂオツトオの繪は何百何十何番と番號を附けられて、多數の繪畫と押し合つて居たのであらうか。チ、アンの「昇天」ネントレットオの「天國」が陳列に適しないといふので、ウエニスのアカデミーから排斥された事は聞かぬのである。凡そ繪畫は特別な場所特別な周圍のなかに置いて見なければならぬものである。たとへば戰爭畫は公堂に、風景畫は別荘の婦人室に置かなければならぬ。併し展覽會に適する繪といふのは一個もあるまい。畫であればこそ各種のものを一堂に集めて濟して見て居られるのであるがこれが音樂であつたなら如何であらう。各種の音樂が別々の調子で朝から晩まで一つ處で演奏して居たなら如何であらうか。道理の合はぬ事は、展覽會の繪の場合も此音樂の場合も同一である。然るに近頃は此各種の繪を雜然と一堂に集める展覽會がまず、流行して來て、聖母の像も洗濯婆の畫も何もかも押し合しへあひ一處に陳列されて居る。其處でそれを見物するために若くは評論するために、素人も批評

家も吾れがちに出かける。

それで大きな繪は展覽會には見られない。繪が大きくなれば、それだけ展覽會に出しては損になる。大抵近頃の畫は展覽會に出すつもりで畫かれたものであるが、中にはさうでないのもある。左様いふ場合には畫家は必ず利益を得て居る。ロセツテイの評判の一半はこの展覽會に出さなかつたといふ處である。

併し展覽會の弊はかゝる技藝上の事にはのみあるのではない。さらた畫家の思想に關係する道德上の害がある。如何にも畫家のうちには確固たる信念を持つて居るものがあらう。併し誘惑の力は偉大である。競争とは多數の繪のうちにあつて、よく人の注意を引かうといふ非望を指す。言葉をかへて言へば、無智文盲なる多數の氣に入らうと力めるのである。意志の強固な人も往々かゝる誘惑にかゝる。隨分立派な畫家が公衆の意を迎へるやうな事をやる。これが展覽會の尤も恐るべき弊である。

畫家が苦心の作を公衆に示す方法は展覽會に依らなくともいろいろある。第一には畫家自からの畫室に於てするもよし、また其畫を納める場所に於てするもよからう。フアイデアスのアテーナルセノンに納められた時には、大祭が行はれ市民が争てその像を拜したチマプエがマドンナを完成してこれを神殿に納めた日にはフロレンス全市が業を休んだ。美術隆盛時代の眞の展覽會とは斯る場合をいふのであらう。

斯様な理由から今日の展覽會なるものは必ずしも悪いとは言はれぬが、公衆の注意を引かうなど云ふ競争心を起すのは甚だ



よろしくない」と(東京朝日)

### ポンチ畫の勢力

△倫敦の『ポンチ』といふ雜誌は、往時巴里で發行された『シヤリヴァリ』といふ滑稽雜誌を眞似したもので、今でも『ポンチ』は一名『ロンドンシヤリヴァリ』と稱してゐる。

△『ポンチ』とは、英國にポンチ及ヂユヂーといふ男と女の人形があつて、此人形を躡らせて様々な滑稽な事を遣つて見せる見世物がある、それが雜誌の名になつたのである、それであるから、英語のポンチは勿論畫のことではないのである。

△パツクといふのは、大昔に英國に住んでゐたといふ人の名で、非常な滑稽家であつたそうだが、其人の名は英米の雜誌に用ひられ續いて近來日本へも入つて來たのである。

△西洋で諷刺畫の起つたのは古いことであるが、盛んになつたのは十五世紀頃で、十八世紀の末には一層隆盛を極めた、クルツクシヤツク(トースス)、ランドシア、リーチ、テニエル等は諷刺畫家として有名であつた、今英國で名高いのはモーリアー、ファイルメイ、ベルグリニ畫名(エープ)、ワード(スパイ)ビーボアム(マツクス)等の諸氏である。

△凡筆の人には諷刺畫はかけぬ、外國の諷刺畫家は孰れも畫家として非凡な人である、一枚の畫は大文豪が百萬言を連れたよりも効がある

△曾て佛國の諷刺畫家は一本の筆で内閣の總辭職をさせた、倫

敦の『ポンチ』はピスマークの辭職を題として世界の相場に大變動を起させたことがある

△日本の諷刺畫は未だ低い程度に居る、諷刺畫が振ふやうでなくては日本の藝術はまだ駄目である、將來大に發達させたいものである、(萬朝報)

△ △ △  
スペインの畫伯ヴェラスケスは國王ヒリッポ四世の寵遇を受くること厚かつた。國王はマドリッドの宮中に畫室さへ設けてこれを與へ、且屢々此所へ訪問した。

ヴェ氏が彼の名高い『官女』を描き、畫中に畫家自身が畫架に對して作業するの像を描き加へたとき、國王は少からず興味を起して毎日、歩を畫室に運ばれた。或日ヴェラスケスはパレットを置き筆を投げて、出來上がつた事を王に告げた。ところが王は「否、尙一ヶ所欠けて居る所がある」といひつゝ畫筆をとつて畫中ヴェラスケスの像に加筆し始めた。

ヴェラスケスは驚いて凝視してゐた、最後のタッチを國王が描き終へた時に、最高の勳章が自分の像の胸部に描き出されたのを見た。(MO生投)

\* \* \* \* \*

\* \* \* \* \*